**あなたのお守りの内に、新しい年となりました。新しい年、最初の礼拝となりました。この礼拝に、健康を守ってくださり、導き入れてくださいましたことを感謝いたします。日々の忙しい手を止め、この世界に目を向けると、この世界はあなたの創造の御業によって与えられたものであることを思います。改めて、心持を新しく信仰生活を進めていくことが出来ますように。**

**願わくは、この島にキリストを求める人を一人でも起こしてください。真理を求め、礼拝の生活を求める人が、三宅島伝道所へとあなたによって招かれますように。私たちの群れから山本加奈子さんが、離れた場所へと生活を移されました。一人減ると寂しさを感じる小さな群れですが、一回一回の礼拝を通して、それぞれが祈りでつながり、また新たな祈りの友を増し加えてくださいますように。**

**どうかあなたがご覧になるこの世界に、あなたの裁きの御手が加えられますように。そして必要なところに救いの御業を起こし、全ての人に立ち返りの道をお示しくださいますように。どうぞ平和をお与えください。**

**私達と離れた場所で暮らしていらっしゃる赤羽姉妹を、山本倫太郎兄弟・山本加奈子姉妹をお守りください。**

**礼拝に来ることのできなかった信仰の友を、今週一週間、あなたが支えてください。**

**創世記9章1節から19節**

**導入：限りなく現実的な話**

**私たちは６章から続く、ノアの洪水の物語を見て来た。**

**聖書の中では際立って分量のある物語だ。**

**洪水から礼拝へ、礼拝から祝福へ、そして神との契約への導きを描いた、裁きから救いへと至る物語だ。**

**このような神話のような物語が、なぜ聖書の中に描かれ、大切に読み継がれてきたのだろうか。**

**神が天地を創造なさって、そこに人間の悪がはびこってしまった。**

**そこで神がご自身の創造の御業を後悔され、悩みながらノアというその時代の中で正しかった人とその家族を選び、世界を洪水で押し流された、という話だ。**

**ノアの正しさとは、神と共に生きていた、ということだ。**

**この世界の中でノアだけが選ばれた、ということで、私たちはノアという人を、特別な人としてとらえて、自分のような普通の人間とはよほど違った人なのだろう、と考えてしまいがちではないか。**

**ノアは私たちの想像をはるかに超えた、次元が違うような立派な信仰を持っていたから、彼だけ特別に救いの箱舟へと選び出されたのだ、と考えしまわないだろうか。**

**そうやって、自分の日常とはかけ離れた物語として読んでしまってはいないだろうか。**

**これは契約の民がどのようにこの礼拝の生活へと導き入れられたのか、その恵みの根源、信仰のルーツを教えてくれる物語だ。**

**その意味で、この洪水物語は、私の物語として読んでいいのだ。**

**ノアは特別な人ではない。**

**普通の人よりも神に近いような存在として書かれているのではない。**

**ノアは天に上げられて神となった、という話ではないのだ。**

**神は、洪水を生き延びたノアと、ノアの家族に、これから地上の生活における使命をお与えになった。**

**その使命とはノアと家族が祝福のうちにこの地上に満ちていくこと。**

**そしてその使命とは、神が今私たちにお与えになっているものだった。**

**ノアと家族、そして被造物が洪水の後に与えられた神からの祝福、そしてこの地上に生きる使命は、今私たちの目の前にある限りない現実そのものなのだ。**

**聖書は、ノアの姿を通して、「ノアのような信仰の高みを目指しなさい」と言っているのではない。**

**洪水の後、神に祭壇を築き、礼拝を捧げたノアと神を描き出し、「これが、あなたが生きている礼拝、契約、祝福の現実そのものなのだ」ということを伝えているのだ。**

**私たちはどれだけ、この物語の中に自分の信仰の姿を見出しているだろうか。**

**系図**

**今日読んだ9：18が、ノアの洪水物語の締めくくりとなる。**

**「箱舟から出たノアの息子はセム、ハム、ヤフェトであった」**

**ノアと息子たちの名前が記されている。**

**この洪水物語の初め、6：9も同じノアの系図で始まっている。**

**「ノアには三人の息子、セム、ハム、ヤフェトが生まれた」**

**この洪水物語は、なぜ洪水が起こされたのか、ということ一緒に、この洪水から救い出されたのは、この人たちだった、ということに焦点を置いている。**

**そして洪水が終わった後、聖書はこう記している。**

**「この3人がノアの息子で、全世界の人々は彼らから出て広がったのである」**

**ここから、地上の新しい世代が始まっていった、ということを私たちに伝えているのだ。**

**神の和解の契約とともに新しい世代が始まっていくことになる。**

**洪水の後、地上の全ての人間がここから始まった、ということは、私たちの信仰のルーツはここまでさかのぼる、ということだろう。**

**洪水によって、人間の心が清くなるのではいか、という期待は幻想に終わった。**

**「人間の心は生まれた時から悪いのだ」と神はおっしゃっている。**

**洪水の後もそれは変わらなかった。**

**聖書が伝えている希望は、「それでも人間は終わりではない」ということだ。**

**地上に人の悪が満ちた混沌の世界から、神の救いによって新しい信仰の一歩が与えられたの、その恵みの現実を聖書は私たちに教えてくれている。**

**メッセージ**

**私たちはこの物語を通して、自分の信仰の根本を見ると共に、自分たち自身の信仰の歩み出しを思い返すことが出来るのではないか。**

**何の理由もなく信仰を求める人はいないだろう。**

**道が見えなくて、どこかに平安を見出したくて、どんな時でも心のよりどころになるものが欲しくて、神を求め始める。**

**信仰とは何だろうか。**

**それは、生きる道そのものだ。**

**生きる方向そのものだ。**

**自分がただ生きているのではなく、どこを向いて生きているのか、今この瞬間何のために生きているのかを知っていたいのだ。**

**それを教えてくださる存在を、そのような生き方へと導いてくださる存在を求めているのだ。**

**この物語は、神との契約と共に歩みだす信仰の民の始まりを描いている。**

**だから、私たちはこの中に信仰者としての自分の姿を見出すことが出来るのだ。**

**そして、今自分が導かれた信仰のあり方を吟味させられるのだ。**

**ノアの礼拝と神からの祝福、これが神との契約に生きる私たちの今を描いたものなのだ。**

**祝福**

**箱舟を下りて礼拝を捧げたノアに、またその家族に、神は祝福の言葉をお与えになった。**

**「産めよ、増えよ、地に満ちよ」**

**9：1と9：7にこの神の祝福の言葉が繰り返されている。**

**これは、初めの天地創造の際に神が男と女に対しておっしゃった祝福と同じだ。**

**続けて神はこうおっしゃる。**

**9：2～4「地の全ての獣と、空の全ての鳥は、地を這うすべてのものと、海の全ての魚とともにあなた達の前に恐れおののき、あなた達の手にゆだねられる。動いている命あるものは、すべてあなたたちの食料とするがよい。私はこれらすべてのものを青草と同じようにあなたたちに与える」**

**読み方によっては、人間は世界の全ての生き物に対して好き勝手して許されているようにもとれる。**

**被造物が人間に対して恐れおののく、そして人間は何を食べてもいい、と言われているのだ。**

**新しくされた世界において人間は我が物顔に世界を支配していいということなのだろうか。**

**最初の人アダムも「地を従わせよ」と言われた。**

**しかしそれは、「大地に仕えなさい」という意味の言葉だった。**

**確かに人間にはこの地上で自由に生きることが許されている。**

**それが神の祝福だ。**

**その自由というのは、神が示された平和の中における自由だ。**

**好き放題やっていい、ということではなかった。**

**この言葉の後、神は人間に制約をお与えになっている。**

**「ただし、肉は命である血を含んだまま食べてはならない。」**

**「人間同士の血については、人間から人間の命を賠償として要求する」**

**血は、命の象徴だ。**

**人は、自分が食べるものに対して、自然に対して、共に生きる隣人に対して畏敬の念をもつことが求められている。**

**神が下さる祝福は、人間の神への従順、被造物への敬意のもとにある自由だった。**

**ただ人間が自然の中に神として君臨するような自由ではない。**

**隣人との平和、世界との調和の中にある自由だ。**

**契約**

**祝福の後、神は契約の言葉をお聞かせになった。**

**ノアだけでなく、ノアの家族だけでもなく、全ての生き物に向かって、神は契約の言葉をお聞かせになった。**

**それは一言でいうと、「ことごとく生き物を滅ぼすということはしない」という約束だった。**

**特定の個人に対してではなく、特定の民族や共同体ではなく、全ての被造物に対して神は契約なさったのだ。**

**しかも、それは被造物が何かしてそのご褒美として、ということではなく、神がご自分で決断されたことを、一方的な恵みとして被造物に約束されたものだった。**

**8節から17節の間に7回契約という言葉が使われる**

**人間だけでなく全ての生きている被造物にまでお示しになった神の恵みの約束だ。**

**私たちはこの世界で自由に生きる恵みが与えられた。**

**その恵みは、この神の決断に基づいていることを忘れてはならないのだ。**

**契約の言葉によって私たちは、生きる道が示されている。**

**逆に言えば、神の言葉がなければ、人は簡単に道を見失う、ということだろう。**

**その意味で、このノアの物語は、私たちが命と死に至る道の岐路に生きているということをはっきりと教えてくれているのではないか。**

**契約のしるし**

**神は契約の印として虹をお見せになった。**

**この「虹を置いた」というのは、直訳したら「空に弓を置いた」という言葉になる。**

**神の祝福に背を向けるような生き方をすれば、神はその弓をもって裁かれる、という警告のしるしとしてとらえることもできるだろう。**

**私たちは虹を見るたびにまた雨が与えられるたびに神の憐れみによって生かされていて、この地上での自分のあり方が問われていく。**

**そして神がこの世界をご自身が弓を持って見張っていらっしゃる**

**神が人の悪を見張る番人となってくださる。**

**神はそのようにこの世界を人の悪から守ってくださる。**

**それは、もし自分が悪の方に走れば、神の弓によって裁かれる、ということでもある。**

**このことを心に置いていれば、神が二度と洪水を起こさないと決意されたとしても、自分たちは裁きとは無縁ではないということを忘れずに済むのではないか。**

**イエス・キリストは、「天の父は善人にも悪人にも雨を降らせてくださる」とおっしゃった。**

**被造物が全て生きられるために、神は雨をくださる。**

**その雨の後ろには虹があり、そこには神の決断が、契約がある。**

**日が照り、雨が降る私たちの生活の中に、どれだけ神の恵みがあふれているだろうか。**

**当たり前のように日の光と恵みの雨が与えられている私たちには、神と共に生きる道と神へと立ち返る道が平等に与えられている。**

**今のしるし**

**今を生きる私たちはどこに神のしるしを見出しているだろうか。**

**イエス・キリストはおっしゃった。**

**「今の時代にはヨナのしるししか与えられない」**

**旧約聖書で、神の元から逃げ出したヨナは魚に飲まれた。**

**そして三日後に吐き出された。**

**キリストは、十字架で殺された後墓に入れられ、三日後に墓の中から復活された。**

**私たちに与えられているヨナのしるしとは、イエス・キリストの復活だ。**

**あの空になったキリストの墓こそが、私たちに与えられた祝福のしるしであり、十字架でキリストが流された血こそが、神との和解の契約のしるしだったのだ。**

**私たちはノアの洪水をはじめ、聖書に描かれている神話のような物語を読んで、自分の実生活とは別の次元の物語のように解釈して終わらせていないだろうか。**

**「自分の周りには、こんな不思議な出来事は起こっていない」と言って読み進めていないだろうか。**

**これは、私たちの現実を描き出した物語であり、今の私たちの日常がどんなに大きな神の祝福と契約の内に置かれたものであるか、ということを伝えているのだ。**

**この一年、感謝をもって歩み出していきたい。**